

2020/11/20

柏の景気情報(令和2年10月分)

柏 商 工 会 議 所

(本件担当) 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（令和2年10月分）

○ 調査期間 : 令和2年10月26日 ~ 令和2年11月9日

○ 調査対象 : 柏市内131事業所及び組合にヒアリング

<産業別回収状況>

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	131	94	71.8%
建設	32	16	50.0%
製造	35	27	77.1%
卸・小売	39	31	79.5%
サービス	25	20	80.0%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1増加他の回答割合 - 3減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【令和2年10月の業況についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲34.0(前月水準▲43.5)となり、マイナス幅が9.5ポイント縮小した。

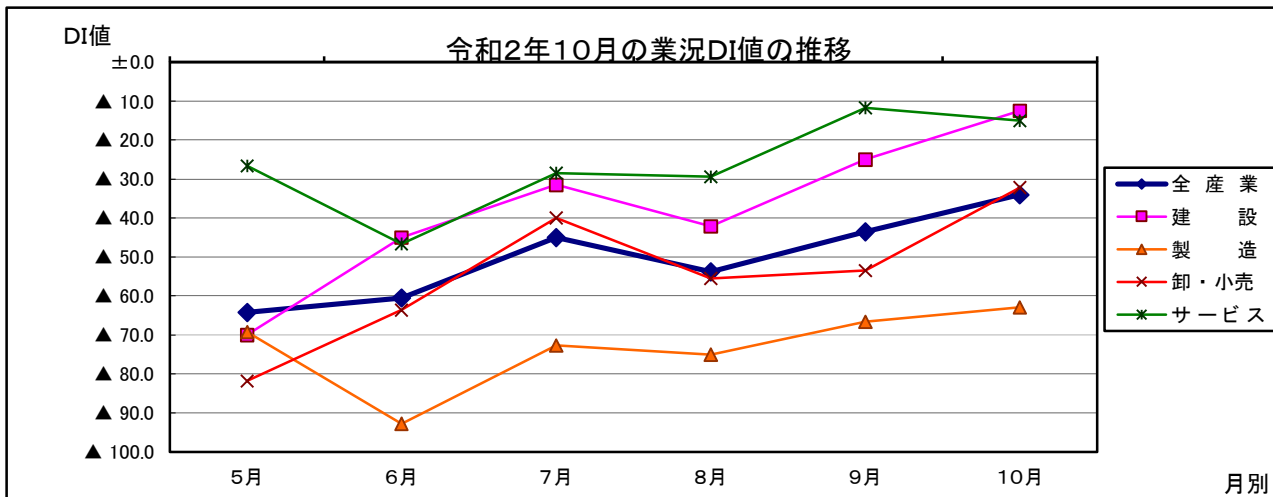
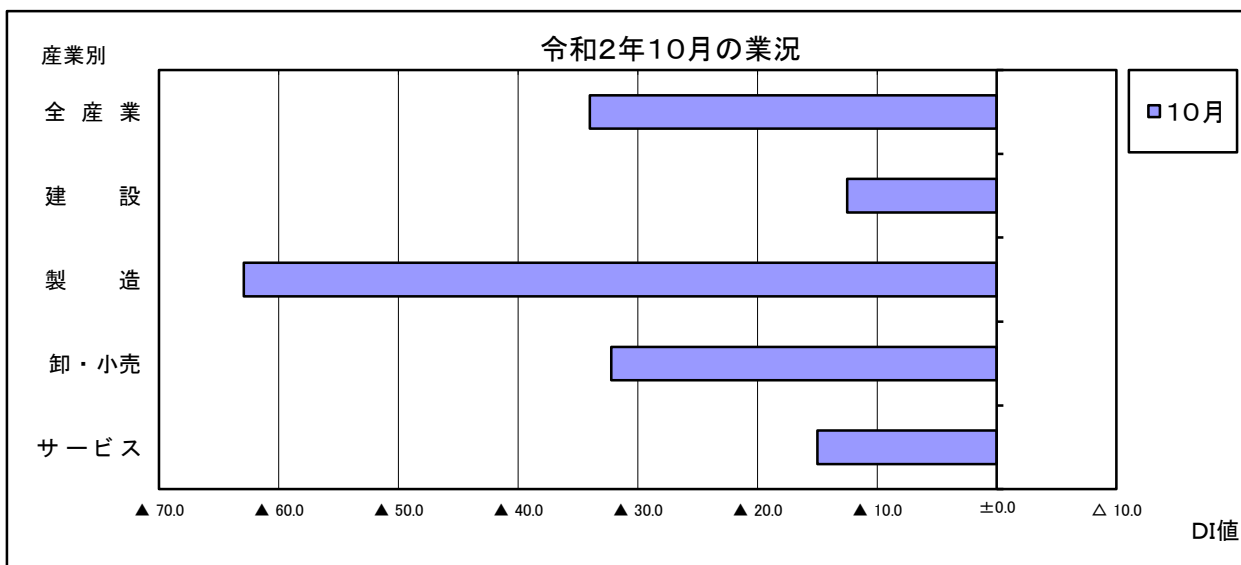
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲32.2(同▲53.5)、建設業▲12.5(同▲25.0)、製造業▲62.9(同▲66.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲15.0(同▲11.7)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.8(前月水準▲23.5)となり、マイナス幅が9.7ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△15.0(同▲11.7)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲22.2(同▲37.5)である。変らない見通しの業種は、建設業▲6.2(同▲6.2)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲29.0(同▲28.5)である。

令和2年10月業況DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲64.2	▲60.5	▲45.0	▲53.8	▲43.5	▲34.0	▲13.8(▲23.5)
建設	▲70.0	▲45.0	▲31.5	▲42.1	▲25.0	▲12.5	▲6.2(▲6.2)
製造	▲69.2	▲92.8	▲72.7	▲75.0	▲66.6	▲62.9	▲22.2(▲37.5)
卸・小売	▲81.8	▲63.6	▲40.0	▲55.5	▲53.5	▲32.2	▲29.0(▲28.5)
サービス	▲26.6	▲46.6	▲28.5	▲29.4	▲11.7	▲15.0	△15.0(▲11.7)



【令和2年10月の売上についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.7(前月水準▲37.6)となり、マイナス幅が7.9ポイント縮小した。

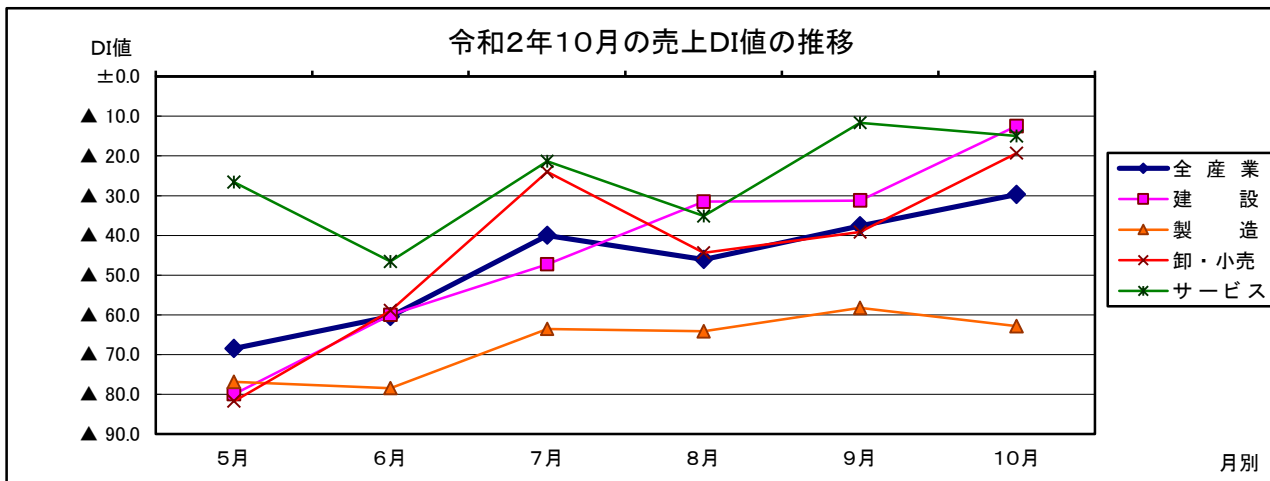
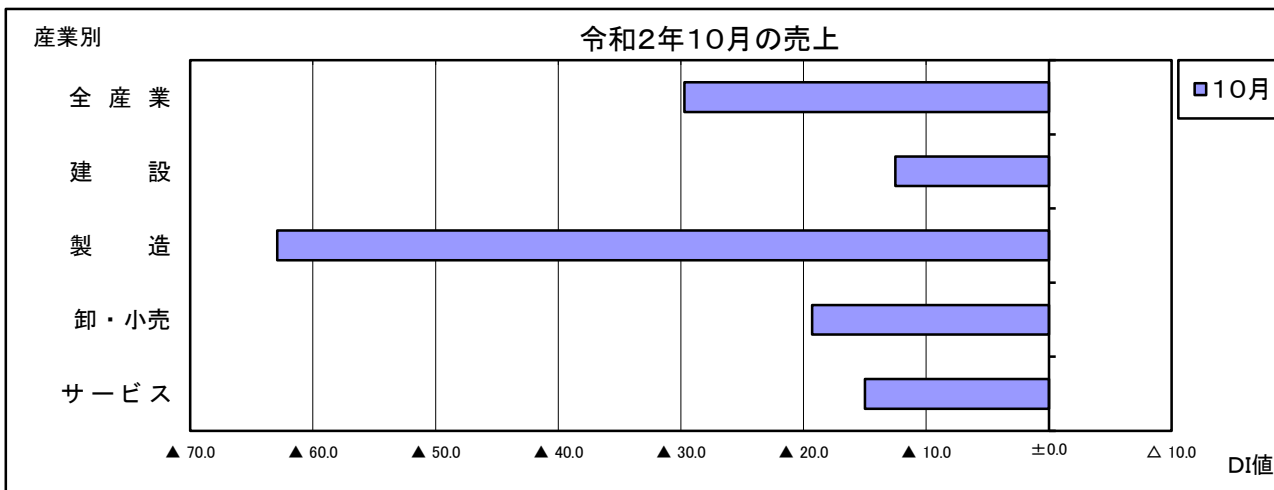
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲19.3(同▲39.2)、建設業▲12.5(同▲31.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲62.9(同▲58.3)、サービス業▲15.0(同▲11.7)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲11.7(前月水準▲9.4)となり、マイナス幅が2.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲18.5(同▲25.0)、卸小売業▲25.8(同▲32.1)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△15.0(同△29.4)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、建設業▲6.2(同△12.5)である。

令和2年10月の売上DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲68.5	▲60.5	▲40.0	▲46.1	▲37.6	▲29.7	▲11.7(▲9.4)
建設	▲80.0	▲60.0	▲47.3	▲31.5	▲31.2	▲12.5	▲6.2(△12.5)
製造	▲76.9	▲78.5	▲63.6	▲64.2	▲58.3	▲62.9	▲18.5(▲25.0)
卸・小売	▲81.8	▲59.0	▲24.0	▲44.4	▲39.2	▲19.3	▲25.8(▲32.1)
サービス	▲26.6	▲46.6	▲21.4	▲35.2	▲11.7	▲15.0	△15.0(△29.4)



【令和2年10月の採算についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲30.8(前月水準▲40.0)となり、マイナス幅が9.2ポイント縮小した。

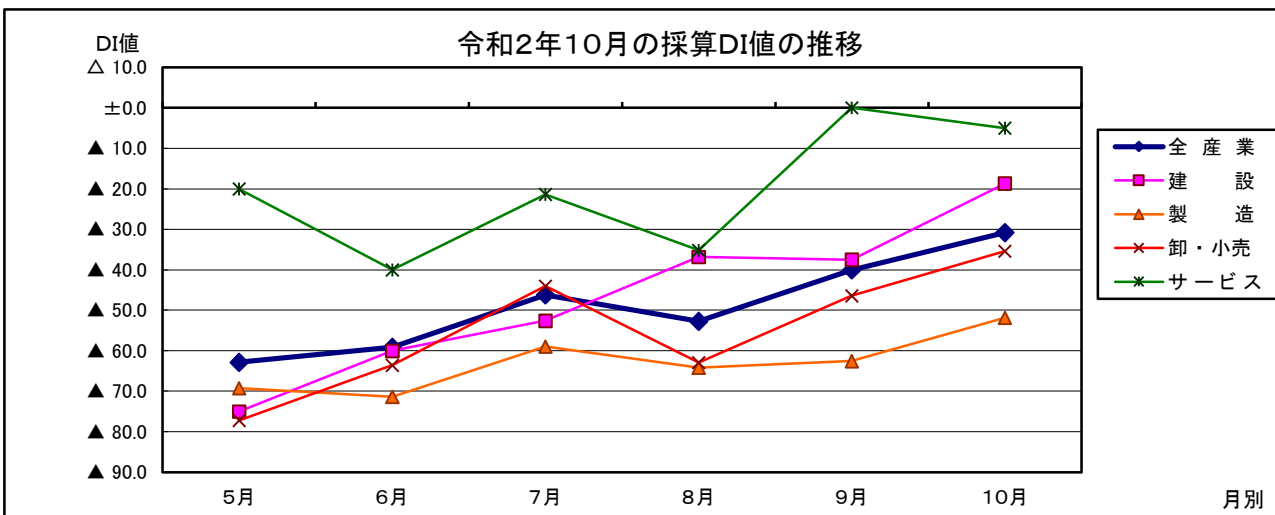
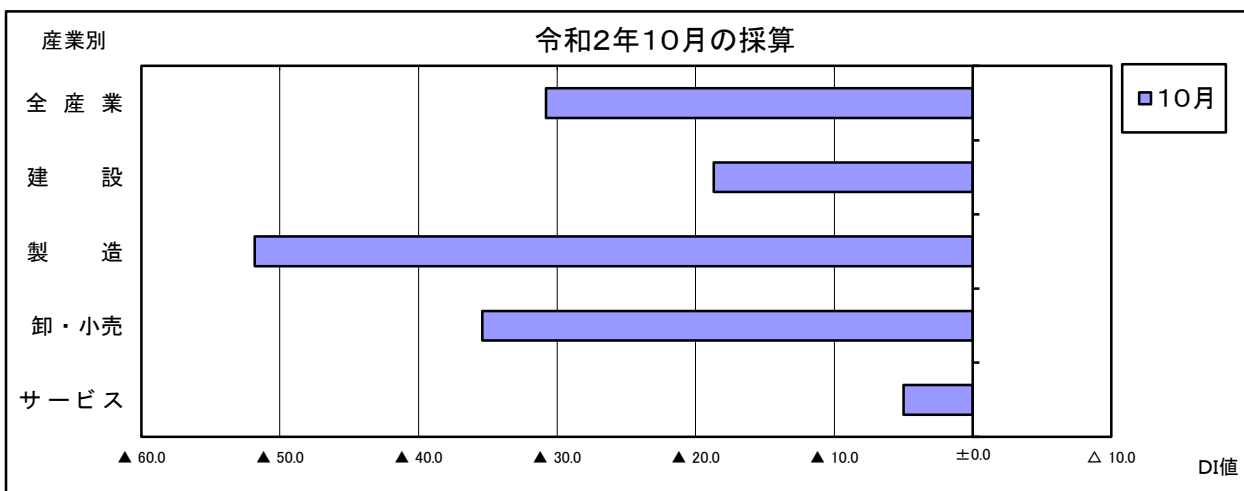
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲18.7(同▲37.5)、卸小売業▲35.4(同▲46.4)、製造業▲51.8(同▲62.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲5.0(同±0.0)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲21.2(前月水準▲17.6)であり、マイナス幅が3.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業△10.0(同△11.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業▲12.5(同▲±0.0)、卸小売業▲41.9(同▲39.2)、製造業▲25.9(同▲25.0)である。

令和2年10月の採算DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲62.8	▲59.1	▲46.2	▲52.7	▲40.0	▲30.8	▲21.2(▲17.6)
建設	▲75.0	▲60.0	▲52.6	▲36.8	▲37.5	▲18.7	▲12.5(±0.0)
製造	▲69.2	▲71.4	▲59.0	▲64.2	▲62.5	▲51.8	▲25.9(▲25.0)
卸・小売	▲77.2	▲63.6	▲44.0	▲62.9	▲46.4	▲35.4	▲41.9(▲39.2)
サービス	▲20.0	▲40.0	▲21.4	▲35.2	±0.0	▲5.0	△10.0(△11.7)



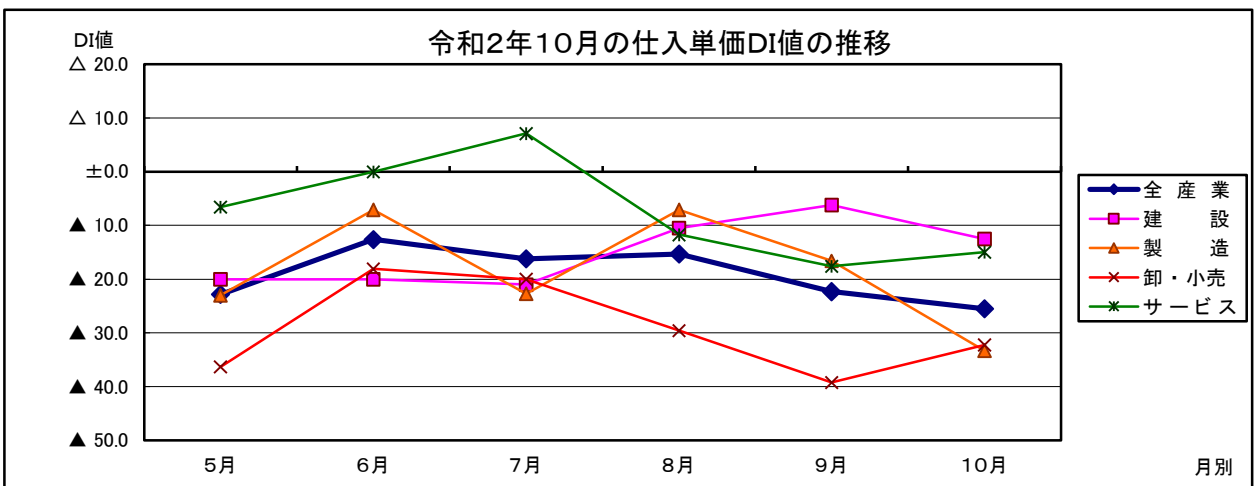
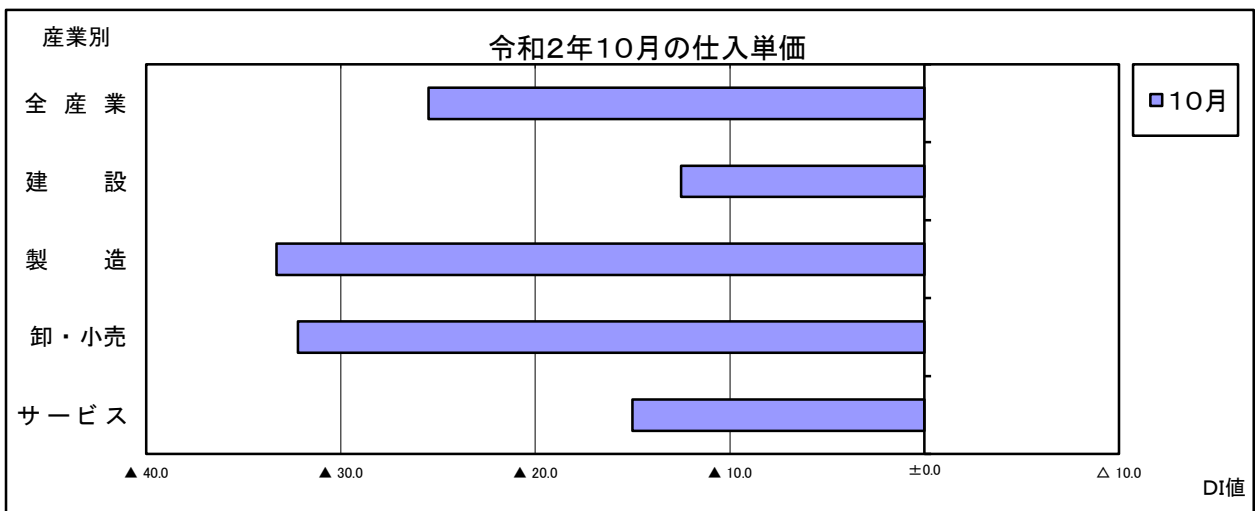
【令和2年10月の仕入単価についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲25.5(前月水準▲22.3)となり、マイナス幅が3.2ポイント拡大した。
 業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲32.2(同▲39.2)、サービス業▲15.0(同▲17.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲33.3(同▲16.6)、建設業▲12.5(同▲6.2)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.3(前月水準▲5.8)となり、マイナス幅が16.5ポイント拡大する見通しである。
 業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲18.5(同△4.1)、サービス業▲10.0(同△5.8)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲35.4(同▲17.8)、建設業▲18.7(同▲12.5)である。

令和2年10月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲22.8	▲12.6	▲16.2	▲15.3	▲22.3	▲25.5	▲22.3(▲5.8)
建設	▲20.0	▲20.0	▲21.0	▲10.5	▲6.2	▲12.5	▲18.7(▲12.5)
製造	▲23.0	▲7.1	▲22.7	▲7.1	▲16.6	▲33.3	▲18.5(△4.1)
卸・小売	▲36.3	▲18.1	▲20.0	▲29.6	▲39.2	▲32.2	▲35.4(▲17.8)
サービス	▲6.6	±0.0	△7.1	▲11.7	▲17.6	▲15.0	▲10.0(△5.8)



【令和2年10月の従業員についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△2.1(前月水準△1.1)となり、プラス幅が1.0ポイント拡大した。

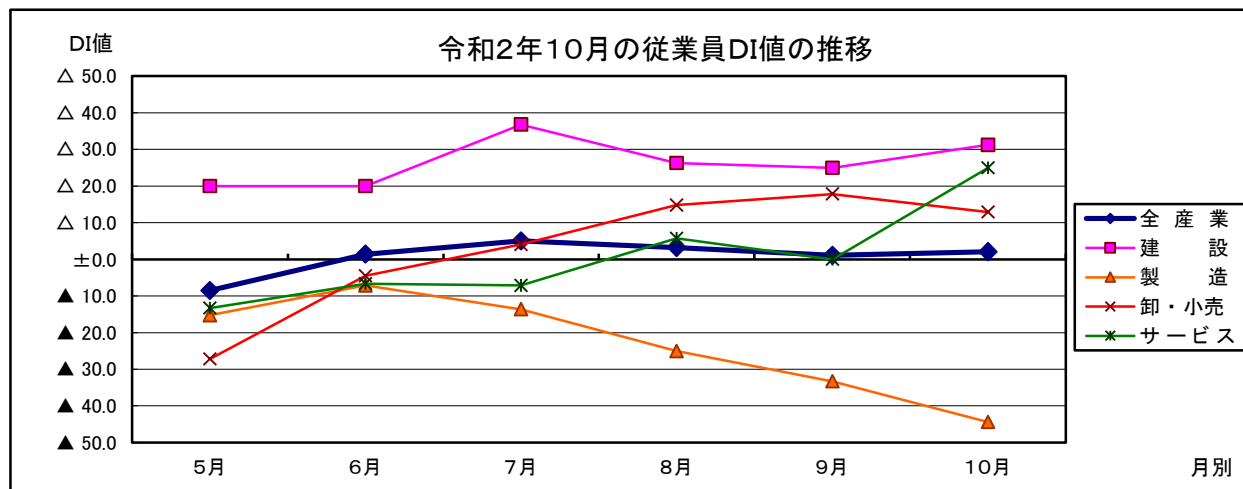
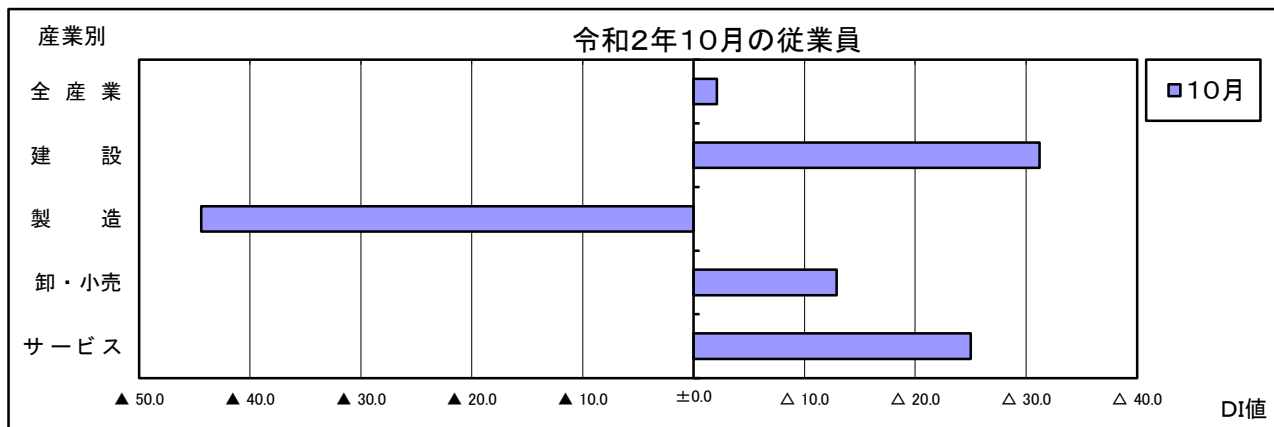
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業△25.0(同±0.0)、建設業△31.2(同△25.0)である。プラス幅が縮小した業種は、卸小売業△12.9(同△17.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲44.4(同▲33.3)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△5.3(前月水準△1.1)となり、プラス幅が4.2ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業△15.0(同△5.8)、建設業△31.2(同△25.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、製造業▲29.6(同▲37.5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業△16.1(同△17.8)である。

令和2年10月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	令和2年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲ 8.5	△ 1.4	△ 5.0	△ 3.2	△ 1.1	△ 2.1	△ 5.3 (△ 1.1)
建設	△ 20.0	△ 20.0	△ 36.8	△ 26.3	△ 25.0	△ 31.2	△ 31.2 (△ 25.0)
製造	▲ 15.3	▲ 7.1	▲ 13.6	▲ 25.0	▲ 33.3	▲ 44.4	▲ 29.6 (▲ 37.5)
卸・小売	▲ 27.2	▲ 4.5	△ 4.0	△ 14.8	△ 17.8	△ 12.9	△ 16.1 (△ 17.8)
サービス	▲ 13.3	▲ 6.6	▲ 7.1	△ 5.8	±0.0	△ 25.0	△ 15.0 (△ 5.8)



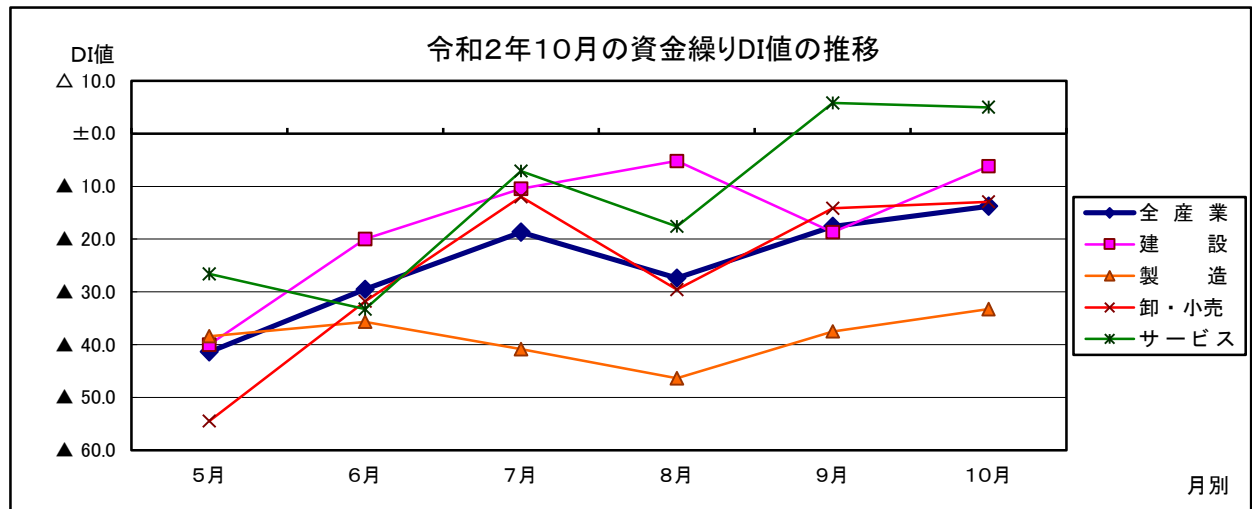
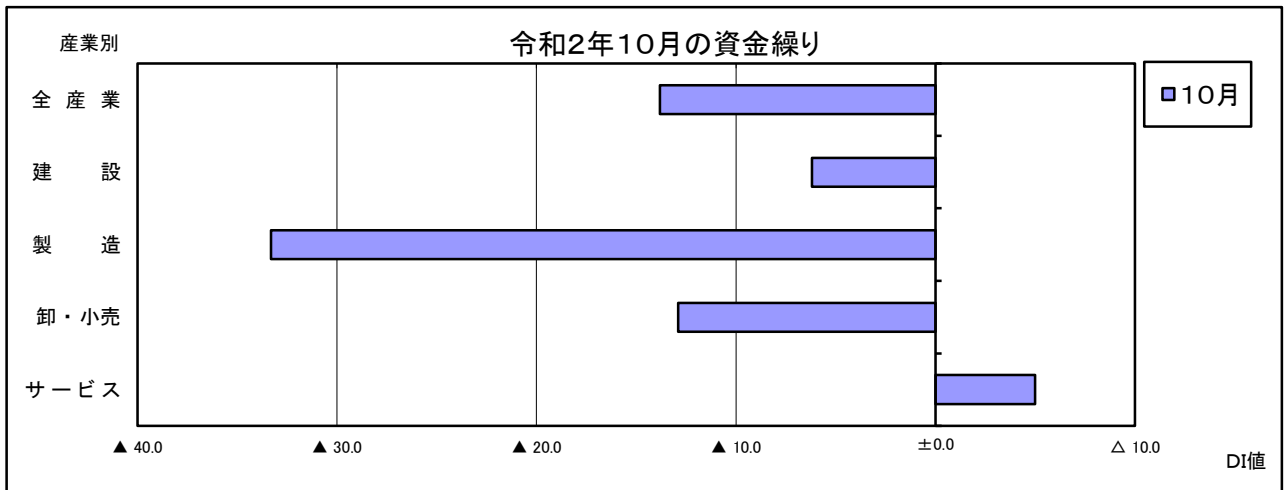
【令和2年10月の資金繰りについての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲13.8(前月水準▲17.6)となり、マイナス幅が3.8ポイント縮小した。
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲6.2(同▲18.7)、製造業▲33.3(同▲37.5)、卸小売業▲12.9(同▲14.2)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業△5.0(同△5.8)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲13.8(前月水準▲20.0)となり、マイナス幅が6.2ポイント縮小する見通しである。
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△5.0(同±0.0)である。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲29.6(同▲41.6)、建設業±0.0(同▲6.2)、卸小売業▲19.3(同▲21.4)である。

令和2年10月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	令和2年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲41.4	▲29.5	▲18.7	▲27.4	▲17.6	▲13.8	▲13.8(▲20.0)
建設	▲40.0	▲20.0	▲10.5	▲5.2	▲18.7	▲6.2	±0.0(▲6.2)
製造	▲38.4	▲35.7	▲40.9	▲46.4	▲37.5	▲33.3	▲29.6(▲41.6)
卸・小売	▲54.5	▲31.8	▲12.0	▲29.6	▲14.2	▲12.9	▲19.3(▲21.4)
サービス	▲26.6	▲33.3	▲7.1	▲17.6	△5.8	△5.0	△5.0(±0.0)



【令和2年10月の調査結果のポイント】

《全産業DIは改善。GoToキャンペーンが追い風となり回復への期待感強まるも、感染拡大に懸念》

10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲34.0(前月水準▲43.5)となり、マイナス幅が9.5ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲32.2(同▲53.5)、建設業▲12.5(同▲25.0)、製造業▲62.9(同▲66.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲15.0(同▲11.7)である。

10月はGo Toキャンペーンが本格的に始まり、徐々に人の動きが戻ってきた事がプラス要因になった様子。個人消費が喚起され、飲食店はやや回復。引き続き食料品は堅調であった。また、在宅需要の拡大で家の畳工事が増加、生活雑貨品は受注増とのコメントが寄せられた。一方、衣料品等の不要不急商品は低調、イベント関係は中止が多い。

先行き見通しDIは▲13.8(今月比+20.2)と改善を見込むが、コロナ前の水準に戻らないとの認識があり、雇用の調整、業務の内製化、感染状況に注視する動きがある。

【建設業】からは、「家の内装に目を向けるお客様が増えているのか、畳工事増加」(畳)、「昨年同月比と比べ、1件当たりの売上、合計も上昇しているが良好とは言えず、予断は許されない」(電気工事)、「夜の会議が少なくなり経費が掛からないのは良い傾向だが、情報交換ができないのが残念」(塗装工事)、「大手の仕事は近隣に集中しているが、個人の工務店は地方にも仕事の範囲を広げており、当社も現場入りしている」(とび)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「化粧品容器受注に改善が見られず見通しもつかない」(プラスチック加工)、「在宅需要か生活雑貨品が好調。先行き小学生向け雑誌のおまけ教材の受注あり、5月までは安定した業績を見込む」(プラスチック製品)、「Go To Eatが始まり一時期より出荷数が戻ったが、コロナ前ほどではない。年末年始に向け売上増を見込むが、各地でクラスターが発生しており予断は許さない」(酒類)、「例年の定期昇給を今回は見送った。来年1月以降パート職の出勤数を減らす。雇用調整助成金がなければ雇用を維持できない。若手社員2名を7月より柏商工会議所のマネジメントセミナーに参加させている」(金属製品)、「細かい受注はあるが、年末にかけた売上の伸びは見込めず」(印刷)、「観光地の消費対策として、Go Toキャンペーン延長に期待」(鉄鋼業)、「社員の仕事量の確保が厳しい。雇用調整助成金での休業も視野に入れ対応予定」(金属加工機械製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「Go Toトラベル・Eatの効果を期待」(洋品雑貨・小間物小売)、「1~7%の売上アップ。年末も強気の仕入れを検討」(各種食料品小売)、「地域共通クーポン券の利用が毎日あり、人の移動を実感。衣料品は厳しいが、昨年の90%まで戻った」(大型小売店)、「大山台に文具専門大型ディスカウント店がオープン。生活雑貨や小物家電等も並び、文具店はもちろんホームセンターや家電店にも影響を及ぼすと思う」(書籍・文房具小売)、「仕入単価が高騰傾向にある中でも受注は増え、景況維持」(建築材料卸売)、「10月のイベントが全て中止になり売上減少」(洋菓子店)、「食料品は好調継続。飲食は昨年を上回り、コロナによる休業以降初めてプラスに。その他、バック等の服飾品・化粧品は好調で衣料品は若干マイナス」(各種商品小売)、「Go To商店街の申請に向け準備中。年末の催事に期待」(各種商品小売)、「市場飲食店の来客が少なく、量販店卸売と一般消費者販売、輸出でカバーしている状況。10月よりスタートした一般向けECサイトの注文が入りだした」(農畜産物・水産物卸売)、「業務の内製化をすすめ利益確保に努めている」(百貨店)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「Go To Eatが始まるも前年並までまだまだ届かない」(日本料理)、「周辺ビルのテナント撤退が増加。条件の良い場所を求めた動きがある」(不動産賃貸)、「特に資産売却相談が増加。一般客の来店は減少。地価は安定」(不動産管理)、「冬期講習は夏期講習に次ぐ大きな収入の柱だが、コロナの影響で学校の冬休みが例年より3日ほど短縮したため、売上は例年を大きく下回る見込み。経費削減で対応せざるを得ない」(学習塾)、「新規案件が増え売上が好転したようだが一時的なもの。既存顧客が一度減らした広告費を元に戻すのは容易ではない。業界全体として新市場の開拓や工夫が必要」(広告代理)、「今年の売上は今までにない良い見込みだが、利益率に比例せず喜べない状態」(ソフトウェア)、「Go to Eatの3密回避基準を満たせず申請していない。基準を下げてほしい」(食堂・レストラン)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲64.2	▲70.0	▲69.2	▲81.8	▲26.6
6月	▲60.5	▲45.0	▲92.8	▲63.6	▲46.6
7月	▲45.0	▲31.5	▲72.7	▲40.0	▲28.5
8月	▲53.8	▲42.1	▲75.0	▲55.5	▲29.4
9月	▲43.5	▲25.0	▲66.6	▲53.5	▲11.7
10月	▲34.0	▲12.5	▲62.9	▲32.2	▲15.0
見通し	▲13.8	▲6.2	▲22.2	▲29.0	▲15.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 29.7	▲ 11.7	▲ 30.8	▲ 21.2	▲ 25.5	▲ 22.3	△ 2.1	△ 5.3
建設	▲ 12.5	▲ 6.2	▲ 18.7	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 18.7	△ 31.2	△ 31.2
製造	▲ 62.9	▲ 18.5	▲ 51.8	▲ 25.9	▲ 33.3	▲ 18.5	▲ 44.4	▲ 29.6
卸・小売	▲ 19.3	▲ 25.8	▲ 35.4	▲ 41.9	▲ 32.2	▲ 35.4	△ 12.9	△ 16.1
サービス	▲ 15.0	△ 15.0	▲ 5.0	△ 10.0	▲ 15.0	▲ 10.0	△ 25.0	△ 15.0

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 34.0	▲ 13.8	▲ 13.8	▲ 13.8
建設	▲ 12.5	▲ 6.2	▲ 6.2	±0.0
製造	▲ 62.9	▲ 22.2	▲ 33.3	▲ 29.6
卸・小売	▲ 32.2	▲ 29.0	▲ 12.9	▲ 19.3
サービス	▲ 15.0	△ 15.0	△ 5.0	△ 5.0

令和2年10月CCI-LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲34.0に対し、「CCI-LOBO」が▲50.2で柏の方がマイナス幅が16.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービス業であり、建設業、卸小売業、サービス業は10ポイント以上良い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲29.7に対し、「CCI-LOBO」が▲49.1で柏の方がマイナス幅が19.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービス業であり、卸小売業、サービス業は10ポイント以上良い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲30.8に対し、「CCI-LOBO」が▲46.7で柏の方がマイナス幅が15.9ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲25.5に対し、「CCI-LOBO」が▲19.8で柏の方がマイナス幅が5.7ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業であり、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業であり、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△2.1に対し、「CCI-LOBO」が△4.9で柏の方がプラス幅が2.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は建設業、卸小売業、サービス業であり、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業であり、10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲13.8に対し、「CCI-LOBO」が▲24.2で柏の方がマイナス幅が10.4ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、卸小売業、サービス業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、製造業である。

【令和2年10月業種別業界内トピックス】






業種別	概況	トピック	業種
建設業	家の内装に目を向けるお客様が増えているのか、畳工事増加。畳縁販売の需要も増。	畳工事増加	畳工事請負・畳製造販売業
	大手ハウスメーカーの仕事は近隣に集中しているが、個人の工務店は地方にも範囲を広げて仕事に結びつけており、当社も現場入りしている。昨年の台風の影響が残る木更津、館山等は今も個人の工務店が屋根工事をしている。	仕事の範囲を拡大	とび
	昨年同月比と比べ、1件当たりの売上、合計共に上昇しているが、決して良好とは言えない。コロナ禍の影響は続いており、仕事の依頼は徐々に回復していると思うが、予断は許されない。	売上上昇	電気工事業
	諸会議で夜に集まるのが少なくなり、経費がかからないのは良いが、情報交換ができず残念。	情報交換の機会喪失	塗装工事業
製造業	新型コロナウイルスの影響で減少した化粧品容器受注に改善が見られず、状況改善の見通しもつかない。このまま続くと資金繰りが非常に厳しくなる。	化粧品容器受注減	プラスチック加工
	在宅需要なのか、生活雑貨品が好調。よって前年より業績は良い。ただ、玩具や比較的高単価なデザイン雑貨の顧客は、未だに売上0、前年比50%以下のところがある。3～5月は小学生向け雑誌のおまけ教材の受注が例年通りあり、5月までは比較的安定した業績が見込めている。	生活雑貨好調 先行き安定に推移する見込み	プラスチック製品
	「GoToキャンペーン」が始まり一時期よりは出荷数も戻ってきたが、コロナ前にはなかなか戻らない。年末年始に向けて売上増を見込むが、各地でクラスターが発生しており予断は許さない。	GoToキャンペーン	酒類製造業
	例年ならば定期昇給の時期だが今回は見送り。また、来年1月より、パート職の勤務日数を減らす予定で、雇用調整助成金の恩恵がなければ雇用を維持できない。新規顧客開拓のため、サイトシステム構築に取り掛かっている。若手社員2名を7月より柏商工会議所のマネジメントセミナーに参加させており、今のうちに底力をつけ、前進の時に備えたい。	雇用維持	金属製品
	細かい受注は少しずつ入ってきたが、年末にかけた売上の伸びは見込めず。コロナ感染防止に注意を払いながら、経済が活発になってほしい。	業績不安定	印刷業
	主力製品はやや持ち直してきたが、在宅勤務やテレワークが加速する中、オフィスの縮小、閉鎖が続いている。コロナ禍以前には戻らないため、新規事業の立ち上げが急務。観光地の消費対策として、Go Toキャンペーン延長に期待する。	新規事業立ち上げ GoToキャンペーンに期待	鉄鋼業
	経済の氷河期に突入した感じだが、必ずしも負の出来事ばかりではないと思う。	新型コロナウイルスの影響	印刷業
	新型コロナウイルスの影響による先行きの不安がある。	先行き不安	機械・同部品製造業
	コロナ禍で受注の落ち込みが顕著な得意先と、そうではない先が鮮明になってきた。今後、落ち込みの大きい先が変わる仕事の確保が課題。現状は、社員の仕事量の確保が厳しい。雇用調整助成金での休業も視野に入れ対応予定。	仕事量の確保が架台 雇用調整助成金	金属加工機械製造業
	新型コロナウイルスの影響はまだ続いており、好転に繋がるかどうか、先行きは予測不可能。	先行き不透明	プラスチック製品製造業
卸・小売業	Go Toトラベル、Go To Eatの参加を予定しているため、効果を期待している。	GoToキャンペーンに期待	洋品雑貨・小間物小売業
	全国のスーパーマーケットは前年と比べ月単位で1～7%売上がアップしており、当社も同じく上がっている。今後も食品小売業は良い数字が続くだろう。年末も強気の仕入れを検討している。	売上増加	各種食料品小売業
	Go Toトラベルの地域共通クーポン券は毎日利用があり、お客様の移動を実感。衣料品は厳しい状況ではあるが、昨年の90%くらいまで戻ってきている。	地域共通クーポン券利用あり	大型小売店
	大山台に、文具専門大型ディスカウント店が10月オープン。文具以外にも生活雑貨や小物家電等が並び、文具店はもちろん、ホームセンターや家電店にも影響を及ぼすと思われる。	競合店オープン	書籍・文房具小売業
	仕入単価が高騰傾向にある中でも受注は増え、景況維持。	仕入単価高騰 受注増加	建築材料卸売業
	10月のイベントが全て中止で、売上減少。先行き不透明。	売上減少	洋菓子店
	昨年は消費税増税によるマイナスがあったため、前年を上回る結果となった。業種別でみると食料品は好調継続、飲食は昨年を上回る結果となり、コロナの影響による休業明け以降、初めてプラスとなった。その他、バック等の服飾品・化粧品は好調。衣料品は若干のマイナス。	食料品、飲食、服飾・化粧品好調 衣料品若干マイナス	各種商品小売業
	Go To商店街の申請に向けて準備中。年末の催事に期待したい。	GoTo商店街申請中	各種商品小売業
	全体的に市場の飲食店の来客は少なく、その分を量販店卸売と一般消費者販売、輸出でカバーしている状況。また、10月より始めた一般消費者向けECサイトもようやく注文が入りだした。	市場飲食店の来店客減少	農畜産物・水産物卸売業
	外部委託していた業務を内製化し、営業費削減による利益確保に努めている。	新型コロナウイルスの影響	百貨店
	Go To Eatが開始するも前年並まではまだまだ届かず、厳しい状況。	昨年並みまで売上回復せず	日本料理
	業種によってコロナの影響は異なるが、平均して3割減の状況が続いている。良いところは、社会構造の変化に伴う特需なので、長い目で見た場合にそれが好業種といえるかは分からない。コロナ融資等を利用して資金は潤沢に見えるが、このまま稼ぎ方を変えずにいると倒産も出ると感じる。	新型コロナウイルスの影響	税理士
	賃貸におけるコロナの影響は一部業種の商業店舗を除けば軽微で、住居系賃貸ではあまり感じない。時代を見極めて業態変更を模索、挑戦していく事が肝要であり、今まで以上に工夫を凝らしていきたい。	コロナの影響は限定的	不動産賃貸・管理業
	明らかに周辺ビルのテナント撤退が増えている。条件の良い場所を求めた動きが多少活発。	テナント撤退増加	不動産賃貸業











【令和2年10月業種別業界内トピックス】











<p>お客様からの売却相談や購入相談は増加。特に資産売却が増えており、新型コロナウイルスの影響はほぼない。一般のお客様からの来客数は減少。取引数はほぼ変化なし。地価も安定している。</p>	<p>資産売却相談増加 取引数変化なし</p>	<p>不動産管理業</p>
<p>夏期講習に次いで冬期講習は大きな収入の柱であるが、コロナの影響で学校の冬休みが例年と比べて3日ほど短縮されたため、売上は例年を大きく下回る事になる。その分、広告宣伝費やその他経費を削減することで対応しなければならない。</p>	<p>冬期講習売上減少の見込み</p>	<p>学習塾</p>
<p>新規案件が増えたことで売上は伸びたが、一時的なものである。既存顧客については、一度減らした広告費を元に戻すのは容易ではない。今年度は新型コロナウイルスの影響が続くとみている。業界全体としても新しい市場の開拓や工夫が必要である。</p>	<p>新規案件増加により業績回復 新市場開拓、工夫が必要</p>	<p>広告代理業</p>
<p>今年の売上は、今までにない金額になる見込み、ただ、利益率に比例せず喜べない状態。</p>	<p>売上増加も利益に比例せず</p>	<p>ソフトウェア業</p>
<p>Go to Eatの3密回避基準に満たすことができないため、申請していない。基準を下げてもらいたい。</p>	<p>Go To Eatの基準引き下げ希望</p>	<p>食堂・レストラン</p>











令和2年10月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較











景気天気図	 特に好調 DI ≥ 50	 好調 50 > DI ≥ 25	 まあまあ 25 > DI ≥ 0	 不振 0 > DI ≥ ▲25	 極めて不振 ▲25 > DI
-------	--	---	--	---	--











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 34.0	 ▲ 12.5	 ▲ 62.9	 ▲ 32.2	 ▲ 15.0
CCI—LOBO	 ▲ 50.2	 ▲ 25.8	 ▲ 63.9	 ▲ 45.3	 ▲ 57.2

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 29.7	 ▲ 12.5	 ▲ 62.9	 ▲ 19.3	 ▲ 15.0
CCI—LOBO	 ▲ 49.1	 ▲ 21.8	 ▲ 62.9	 ▲ 39.9	 ▲ 60.3

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 30.8	 ▲ 18.7	 ▲ 51.8	 ▲ 35.4	 ▲ 5.0
CCI—LOBO	 ▲ 46.7	 ▲ 25.2	 ▲ 57.9	 ▲ 39.9	 ▲ 58.2

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 25.5	 ▲ 12.5	 ▲ 33.3	 ▲ 32.2	 ▲ 15.0
CCI—LOBO	 ▲ 19.8	 ▲ 24.1	 ▲ 16.5	 ▲ 19.6	 ▲ 17.8

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 2.1	 31.2	 ▲ 44.4	 12.9	 25.0
CCI—LOBO	 4.9	 30.1	 ▲ 12.2	 8.8	 5.9

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 13.8	 ▲ 6.2	 ▲ 33.3	 ▲ 12.9	 5.0
CCI—LOBO	 ▲ 24.2	 ▲ 4.0	 ▲ 27.3	 ▲ 25.9	 ▲ 34.3

CC I - L O B O

商工会議所早期景気観測(10月速報)

調査期間：2020年10月15日～21日

調査対象：全国の335商工会議所が2,757企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、持ち直しの動きもまだら模様。先行きは慎重な見方も、回復への期待感続

10月の全産業合計の業況DIは、▲50.2と、前月から+6.3ポイントの改善。新型コロナウイルスの影響が長期化する中、巣こもり需要の拡大に下支えされた飲食料品関連が堅調なほか、東京が追加されたG・T・OトラベルやG・T・Oの政策効果により宿泊業、飲食業でも利用客の増加がみられた。また、オンライン会議の普及などによるデジタル投資の増加を受け、電子部品製造業やソフトウェア関連で受注が伸びているほか、中国向けを中心に生産が回復しつつある自動車関連でも持ち直しの動きが続く。一方、衣料品や化粧品をはじめ、不要不急の商品を買い控えるなど、一部では消費者の生活防衛意識の高まりを指摘する声も聞かれており、コロナ禍からの回復に向けた動きはまだら模様の状況が続く。

先行きについては、先行き見通しDIが▲38.0（今月比+11.2、2ポイント）と改善を見込む。雇用維持や家賃負担軽減のための助成金など、政策効果が剥落した後

の経営悪化や都市部から地方への感染再拡大への懸念が続く。一方で、年末年始を含む旅行需要の回復やG・T・O商店街などによる消費喚起への期待感もうかがえる。また、海外向けの自動車関連や、5G向けなど半導体関連、中国向けの工作機械の持ち直しに期待する声も聞かれた。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

業種別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、全ての業種で改善した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「道路拡張などの公共工事に伴う工事用設備の解体および建て替え工事の受注により、売上が増加している」（建築工事業）、「都

市部の大規模事業の延期・中止の影響を受けた地域外の事業者が地元の入札案件に参入するようになり、今まで新型コロナウイルスの影響を受けていなかっただ元の影響を受けている事業者に「（一般工事業）

【製造業】「消費者の内食需要の拡大により、スーパーマーケット等の小売向けの売上が堅調に推移した。ネット通販やふるさと納税返礼品への対応など、新たな販路開拓を通じて今後の売上増加を目指したい」（水産食料品製造業）、「北米向けなどの完成車の生産台数が持ち直しつつあることから、主力商品であるヘッドランプの受注が増加した」（自動車部品製造業）

【卸売業】「9月の連休以降、G・T・Oトラベル、G・T・Oの効果がもあり、観光地や飲食店向けの売上が増加傾向にある」（飲食料品卸売業）、「ウイルス対策に特化した空調機の引き合いが好調。新型コロナウイルスやインフルエンザの感染拡大が懸念される冬に向けて、さらなる需要を見込んでいる」（電気機械器具卸売業）

【小売業】「消費者の外出自粛による来客数の減少が続いている。巣こもり需要に対応した調理用品の販促や全国の名産品・特産品を販売する催事の開催などにより、売上・採算の改善を図る」（百貨店）、「G・T・Oトラベルの地域共通クーポンを利用する来店客が続いており、売上が増加。現金化には時間がかかるため、資金繰りに注意したい」（土産品小売業）

【サービス業】「G・T・Oトラベルにより客足が戻りつつあるものの、団体客は低調。先行きもG・T・Oトラベル終了後の利用客減少を懸念している」（宿泊業）、「小中学校向けのPC・ネットワーク整備関連の受注が伸びている。今後、オンライン教育に対応したサービスを開発・販売し、さらなる売上増加を図りたい」（ソフトウェア業）

全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
5月	▲65.8	▲37.7	▲69.9	▲62.9	▲70.0	▲77.6
6月	▲62.8	▲35.0	▲72.6	▲61.6	▲60.4	▲73.4
7月	▲59.3	▲34.8	▲70.6	▲59.5	▲53.4	▲68.4
8月	▲59.0	▲34.9	▲69.6	▲56.7	▲53.2	▲70.2
9月	▲56.5	▲30.7	▲68.3	▲51.2	▲52.5	▲67.8
10月	▲50.2	▲25.8	▲63.9	▲47.8	▲45.3	▲57.2
見通し	▲38.0	▲28.1	▲39.1	▲36.3	▲43.9	▲39.3

柏の景気情報 (令和2年10月の調査結果のポイント)

★調査結果のまとめ

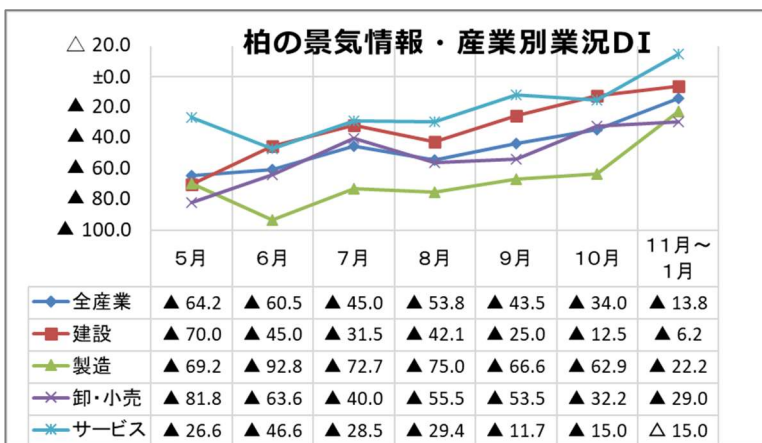
調査期間：令和2年10月26日～11月9日 調査対象：柏市内131事業所及び組合にヒアリング、回答数94件

全産業DIは改善。GoToキャンペーンが追い風となり回復への期待感強まるも、感染拡大に懸念

10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲34.0(前月水準▲43.5)となり、マイナス幅が9.5ポイント縮小した。

10月はGoToキャンペーンが本格的に始まり、徐々に人の動きが戻ってきた事がプラス要因になった様子。個人消費が喚起され、飲食店はやや回復。引き続き食料品は堅調であった。また、在宅需要の拡大で家の畳工事が増加、生活雑貨品は受注増とのコメントが寄せられた。一方、衣料品等の不要不急商品は低調、イベント関係は中止が多い。

先行き見通しDIは▲13.8(今月比+20.2)と改善を見込むが、コロナ前の水準に戻らないとの認識があり、雇用の調整、業務の内製化、感染状況に注視する動きがある。



★業種別の動向

前月と比べたDI値の動き 改善 横ばい 悪化



「家の内装に目を向けるお客様が増えているのか、畳工事増加(畳)、「昨年同月比と比べ、1件当たりの売上、合計も上昇しているが良好とは言えず、予断は許されない(電気工事)、「夜の会議が少なくなり経費が掛からないのは良い傾向だが、情報交換ができないのが残念(塗装工事)、「大手の仕事は近隣に集中しているが、個人の工務店は地方にも仕事の範囲を広げており、当社も現場入りしている」とび)などのコメントが寄せられた。



「化粧品容器受注に改善が見られず見通しもつかない(プラスチック加工)、「在宅需要か生活雑貨品が好調。先行き小学生向け雑誌のおまけ教材の受注あり、5月までは安定した業績を見込む(プラスチック製品)、「GoTo Eatが始まり一時期より出荷数が戻ったが、コロナ前ほどではない。年末年始に向け売上増を見込むが、各地でクラスターが発生しており予断は許さない(酒類)、「例年の定期昇給を今回は見送った。来年1月以降パート職の出勤数を減らす。雇用調整助成金がなければ雇用を維持できない。若手社員2名を7月より柏商工会議所のマネジメントセミナーに参加させている(金属製品)、「細かい受注はあるが、年末にかけて売上の伸びは見込めず(印刷)、「観光地の消費対策として、GoToキャンペーン延長に期待(鉄鋼業)、「社員の仕事量の確保が厳しい。雇用調整助成金での休業も視野に入れ対応予定(金属加工機械製造業)などのコメントが寄せられた。



「GoToトラベル・Eatの効果を期待(洋品雑貨・小間物小売)、「1～7%の売上アップ。年末も強気の仕入れを検討(各種食料品小売)、「地域共通クーポン券の利用が毎日あり、人の移動を実感。衣料品は厳しいが、今年の90%まで戻った(大型小売店)、「大台に文具専門大型ディスカウント店がオープン。生活雑貨や小物家電等も並び、文具店はもちろんホームセンターや家電店にも影響を及ぼすと思う(書籍・文具小売)、「仕入単価が高騰傾向にある中でも受注は増え、景況維持(建築材料卸売)、「10月のイベントが全て中止になり売上減少(洋菓子店)、「食料品は好調継続。飲食は昨年を上回り、コロナによる休業以降初めてプラスに。その他、バック等の服飾品・化粧品は好調で衣料品は若干マイナス(各種商品小売)、「GoTo商店街の申請に向け準備中。年末の催事に期待(各種商品小売)、「市場飲食店の来客が少なく、量販店卸売と一般消費者販売、輸出でカバーしている状況。10月よりスタートした一般向けECサイトの注文が入りだした(農畜産物・水産物卸売)、「業務の内製化をすすめ利益確保に努めている(百貨店)などのコメントが寄せられた。



「GoTo Eatが始まるも前年並までまだまだ届かない(日本料理)、「周辺ビルのテナント撤退が増加。条件の良い場所を求めた動きがある(不動産賃貸)、「特に資産売却相談が増加。一般客の来店は減少。地価は安定(不動産管理)、「冬期講習は夏期講習に次ぐ大きな収入の柱だが、コロナの影響で学校の冬休みが例年より3日ほど短縮したため、売上は例年を大きく下回る見込み。経費削減で対応せざるを得ない(学習塾)、「新規案件が増え売上が好転したようだが一時的なもの。既存顧客が一度減らした広告費を元に戻すのは容易ではない。業界全体として新市場の開拓や工夫が必要(広告代理)、「今年の売上は今までにない良い見込みだが、利益率に比例せず喜べない状態(ソフトウェア)、「GoTo Eatの3密回避基準を満たせず申請していない。基準を下げしてほしい(食堂・レストラン)などのコメントが寄せられた。

★全国の商工会議所早期景気観測調査(CCI-LOBO)との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲34.0に対し、「CCI-LOBO」が▲50.2で柏の方がマイナス幅が16.2ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業、卸小売業、サービス業であり、建設業、卸小売業、サービス業は10ポイント以上良い。